

SABO NEWS LETTER

第 147 号【発行日】令和 3(2021)年 7 月 20 日(火)【発行】(一社)全国治水砂防協会

目 次

- | | | |
|----|------------------------------|---|
| 1. | 目 次 | 1 |
| 2. | 前国土交通省砂防部長より退任のご挨拶 | 2 |
| 3. | 新国土交通省砂防部長より就任のご挨拶 | 3 |
| 4. | (一社)全国治水砂防協会理事長 挨拶 | 4 |
| 5. | 国土交通省提供資料 | 5 |

ご質問、ご意見、ご感想、記事の詳細内容等、お問合せ先

一般社団法人 全国治水砂防協会

住所：〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-7-4

電話：03-3261-8386 FAX：03-3261-5449 E-mail：kyokai@sabo.or.jp

砂防に関する最新情報は砂防協会ホームページをご覧ください。

<http://www.sabo.or.jp/>

前国土交通省砂防部長より退任のご挨拶

会員みなさま

梅雨曇りが夏空に変わり、今週末にはオリンピックが開催されます。みなさまにおかれましてはお元気でお過ごしのことと存じます。

さてこのたび、7月1日付で砂防部長を退任しました。熱海市での土砂災害には直後である故、忸怩たる思いがあり心が痛みます。これまで、みなさま方から数多くのご厚情を賜りありがとうございました。地域での取り組み、提案・要望をはじめ砂防行政に対する激励を頂戴し、たいへん有意義で密度の濃い2年間でした。心より感謝申し上げます。

ここ数年間大きな土砂災害の対応にあたって参りましたが、建設されていた砂防施設が命を救ったと地域から報告を頂戴するたび、喜びとともに施設の重要性を広報し続けてきたところです。データでも明らかなように、近年災害は激甚化・広域化しています。これらを伝えるメディアもより丁寧・確実に事象を扱うようになったと思います。中でも住民避難に関する情報発信は確実に行われるようになり、自然災害に対する理解と行動が随分と高まってきたように感じています。この狭い国土で生活するには危険な箇所と上手に付き合っていく必要があります。これからも地域の方々の理解を得る努力を続け、引き続き土砂災害による犠牲者を無くして参りましょう。

このような状況下、「事前防災が重要」との声が、被災された地域のみならず全国各地から寄せられました。これら要請によって「防災・減災、国土強靱化3か年緊急対策」が、そして「5か年加速化対策」の実施が決定し、事前防災に対する高評価が事業費の劇的増加への道筋となりました。砂防事業がこれまで以上に進展することを嬉しく感じる一方、必要な施策を推進する重責に身の引き締まる思いでありました。

今後は様々な課題に対し、後任の三上砂防部長が舵取りを行います。どうぞ引き続き砂防関係行政に対してご支援、ご協力を賜りますよう、また、地域の声が新たな施策の実現につながるよう、多くのご要望を頂けますようお願い申し上げます。最後になりましたが、みなさま方の益々のご健勝と、地域の発展をご祈念申し上げ、退任の挨拶とさせていただきます。

今井 一之

新国土交通省砂防部長より就任のご挨拶

会員みなさま

東京では先週梅雨明け宣言が発出され、夏本番を迎えております。 会員のみなさまにおかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

7月1日付で砂防部長を拝命しました三上と申します。「SABO NEWS LETTER」の紙面をお借りし一言ご挨拶申し上げます。私自身のこれまでの行政経験を活かしつつ、みなさんと一緒に砂防行政のさらなる推進に努めてまいります。今井一之前砂防部長同様に、どうぞよろしくお願い致します。

さて、近年は気候変動の影響もあり自然災害の激甚化、広域化が指摘され、土砂災害の発生件数も増加傾向にあります。本年も7月3日に静岡県熱海市で発生した土石流災害をはじめ、各地で土砂災害が発生し、尊い人命と貴重な財産が失われるばかりでなく、社会経済活動に甚大なダメージがもたらされております。申し上げるまでもなく、砂防堰堤の整備をはじめとするハード対策の推進による「いのちとくらしを守る」ことに加え、警戒避難体制の充実・強化による人的被害の回避が重要です。

もとより国土交通省砂防部のミッションは、全国の地方整備局等と力を合わせ、都道府県・市町村のみなさまと連携・協力し、土砂災害の防止・軽減にあたることにあります。みなさまにおかれましては地域の実情をお聞かせいただき、課題克服に向けた施策提案をいただき、砂防関係事業の推進へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。昨今、コロナ感染症対策の関係でオンラインシステムも駆使して関係方面への情報発信にご尽力いただいているところであります。みなさまにはたいへんなご不便をおかけしますが、引き続きよろしくお願い致します。国土交通省砂防部といたしましては、いただいたご提案等を砂防行政にしっかりと活かすべく取り組んでまいります。

全国的には梅雨期も一段落しましたが、このあとに続く台風期への備えも重要です。今一度防災体制を確認いただき、土砂災害の防止・軽減に向けた体制強化をお願い申し上げます。末筆ながら、みなさまの益々のご健勝と、安全・安心に根ざした地域のさらなるご発展を祈念して、ご挨拶とさせていただきます。

令和3年7月

国土交通省 砂防部長 三上 幸三

(一社) 全国治水砂防協会理事長 挨拶

会員の皆様へ

この7月1日付で異動になられた前砂防部長今井様と三上新砂防部長よりご挨拶をいただきました。今井様、ありがとうございました。また、三上部長には砂防行政のさらなる進展に引き続きのご尽力をお願い申し上げます。

さて、東京では梅雨が明け、盛夏を思わせる日差しが照りつけております。今年の梅雨前線豪雨では熱海市で土石流災害が発生し、現在も行方不明者の捜索活動が続いております。お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りし、被害にあわれた皆様に心からお見舞いを申し上げます。

ご承知のように、この熱海市の災害は、通常 of 自然災害とは異なり、谷上部の盛土の存在が明らかになったため、非常に特異な災害となっております。今後どのような方向に話が進むのか注視していく必要があります。今回の災害からの教訓をもとに、必要な対応を考えていかねばなりません。

また、今月中旬には、ヨーロッパのドイツ西部やベルギーなどで、記録的な水害が発生しております。被害の全容はまだわかりませんが、地球温暖化のもたらす負の影響が、人の存在を脅かす気象現象となって世界中で猛威をふるっております。警戒避難体制の整備などソフト対策も含めた国土の強靱化がさらに求められています。

このような状況も踏まえ、7月1日に開催しました当協会主催の実務者講習会を、オンラインで配信することといたしました。防災教育や住民の避難行動、災害時の危機管理対応などのテーマは、まさに市町村の担当者にとって有意義な内容です。3名の講師のご好意で実現した企画ですので、是非ご覧くださいませ。詳細は協会のHPに記載させていただいております。皆様の地域の防災力強化に役立てばうれしく思います。

時節柄、どうかご自愛くださいますように。

令和3年7月20日

一般社団法人 全国治水砂防協会
理事長 大野 宏之

令和3年 7月1日からの大雨による土砂災害発生状況

令和3年7月14日 10:00現在 速報版

土砂災害発生件数

193件

〔土石流等： 19件〕
〔地すべり： 6件〕
〔がけ崩れ： 168件〕

【被害状況】

人的被害：死 者 11名
行方不明者 17名
負 傷 者 7名
家屋被害：全 壊 132戸
一部損壊 18戸

※静岡県熱海市伊豆山逢初川の土石流による人的被害・家屋被害は現在確認のため、今後数値が変わる可能性があります。

7/8

土石流等

みはら こいずみ
広島県三原市小泉町

7/3

がけ崩れ

ずし めまま
神奈川県逗子市沼間

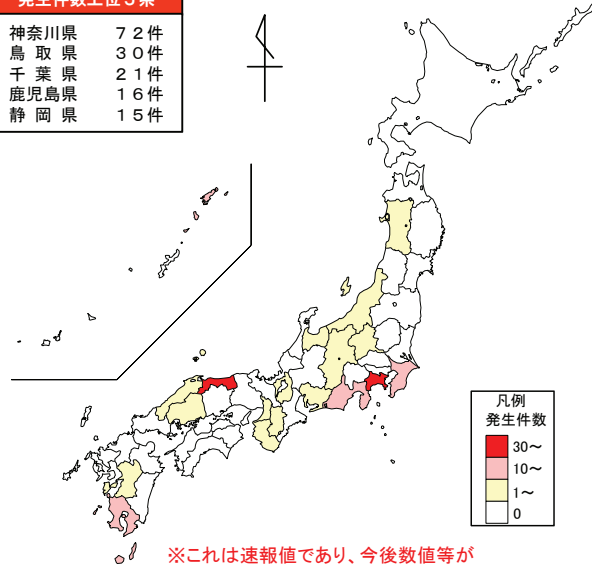
7/3

がけ崩れ

おだわら えのうら
神奈川県小田原市江之浦

発生件数上位5県

神奈川県	72件
鳥取県	30件
千葉県	21件
鹿児島県	16件
静岡県	15件



※これは速報値であり、今後数値等が変わる可能性があります。

7/8

がけ崩れ

くらよし おほら
鳥取県倉吉市大原

7/6

地すべり

ながの しののい
長野県長野市篠ノ井

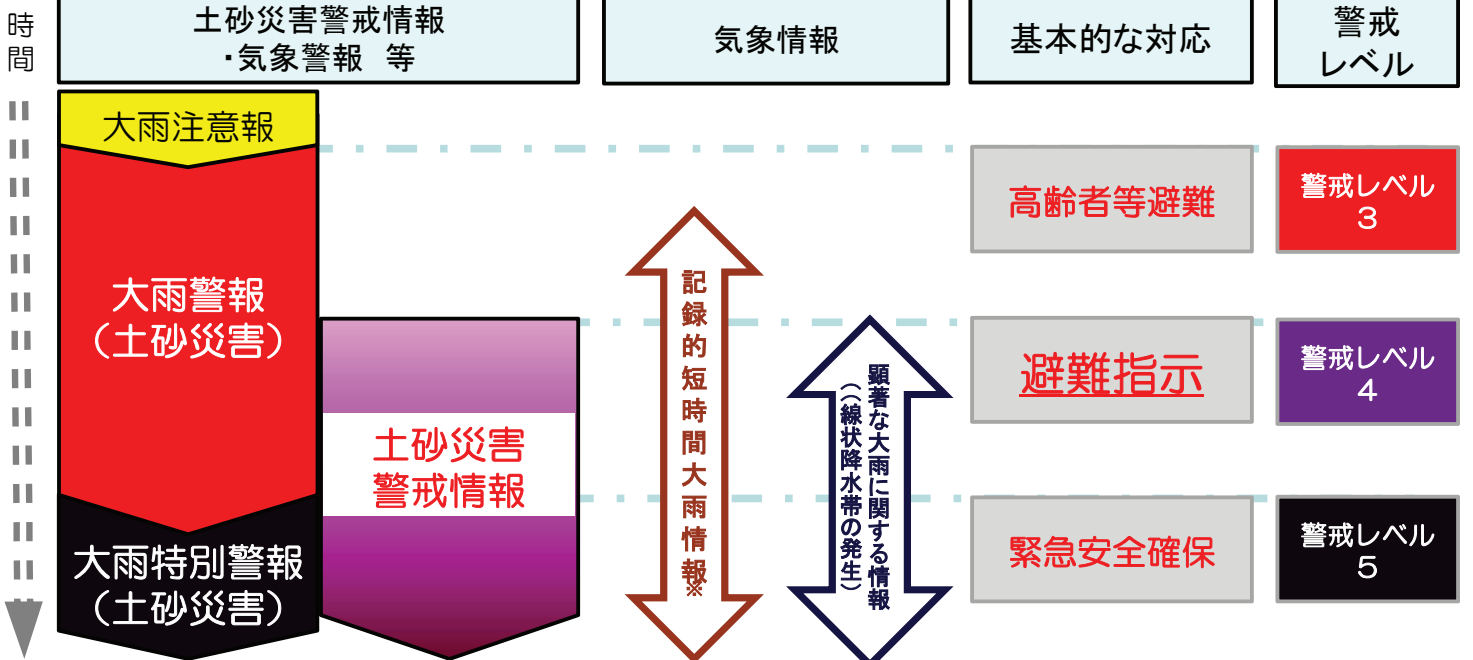
7/3

土石流等

あたま いずさん
静岡県熱海市伊豆山

土砂災害に関する情報とその対応について

令和3年5月の災対法、土砂災害防止法の改正により、避難勧告・避難指示は避難指示に一本化。
令和3年6月17日より、「顕著な大雨に関する防災情報」の運用開始。警戒レベル4相当以上の状況で、非常に激しい雨が同じ場所で降り続けている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って発表。



※記録的短時間大雨情報：数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を観測したり、解析した場合に発表。大雨警報発表中に、キキクル(危険度分布)に「非常に危険(うす紫)」が出現している場合に発表。